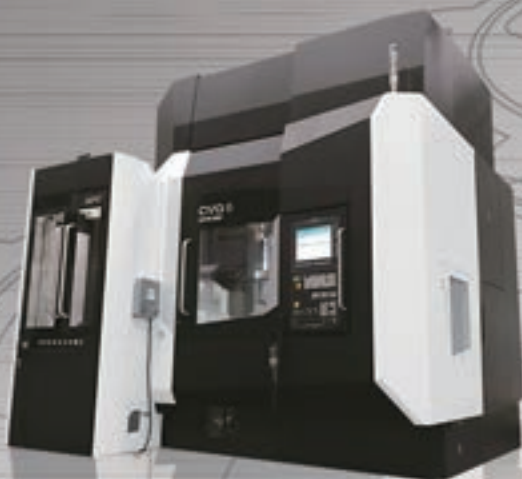


TAIYO KOKI
THE GRINDING MACHINE COMPANY



第**32**期

Business Report

2016年1月1日～2016年12月31日

株式会社 太陽工機

証券コード 6164

企業理念

私たちは、
先進的技術を駆使した
製品を創造し、
精密加工を通して
世界の製造業の発展に
貢献する

経営方針

1 内外の法令を遵守し、
フェアな企業活動に徹する

2 イノベーションを追求し、
最先端の技術力と提案力で
社会に貢献する

3 企業価値を高め、
顧客、従業員、株主、
その他のステークホルダー
に報いる

株主の皆様へ

To Our Shareholders

更なる増収増益に向け、海外市場の拡大及び 国内需要の掘り起こしに注力してまいります。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2016年度は、国内外の展示会に出展するとともに、高生産性を追求した新製品の開発や技術提案型の営業活動を行うことで、新規ユーザー層の拡大と設備投資ニーズを積極的に掘り起こし、着実な受注につなげてまいりました。



その結果、国内においては自動車関連企業からの大口受注及び産業機械関連企業や工作機械関連企業からの設備投資需要を多数獲得いたしました。また海外においては、営業活動強化のため米州と欧州に現地技術営業スタッフを配置したことにより、現地ユーザーからの受注や引合が順調に増加してきております。

当期の業績につきましては、売上高は、6,807百万円となりました。利益面では、営業利益806百万円、経常利益791百万円、当期純利益489百万円となりました。

当期の配当につきましては、現状の業績を踏まえ20円増額の期末配当40円を実施することとなりました。

2017年度につきましては、国内においては自動車関連企業や産業機械関連企業を中心に幅広い業種からの需要が堅調に推移しており、引き続き安定的な受注が見込まれます。海外においては、米州や欧州の需要が着実に増加してきており、今後は更なる需要が見込まれております。特に米州市場においては、世界最大手メーカーへの納入実績を活かし、中堅企業の需要の取り込みを推進してまいります。

今後とも当社は、市場ニーズを捉えた製品の投入を軸に営業展開を図り、需要の発掘及び当社製品の普及拡大に注力してまいります。

皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2017年3月

代表取締役社長 渡辺 登

当初計画の売上を達成した太陽工機の2016年度。ここでは渡辺社長への取材を通じて、自動車関連業界の開拓など今後の成長戦略についてご説明します。

海外の自動車関連業界への本格参入など、次なる成長ステージへの突入を図ってまいります。



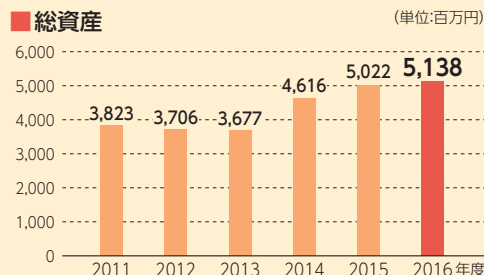
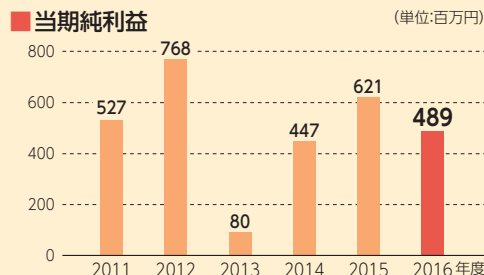
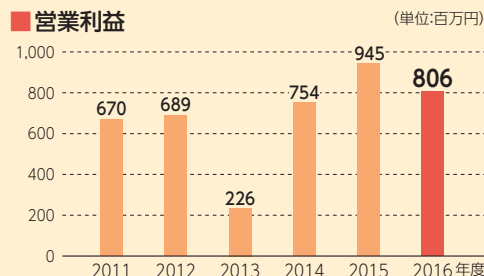
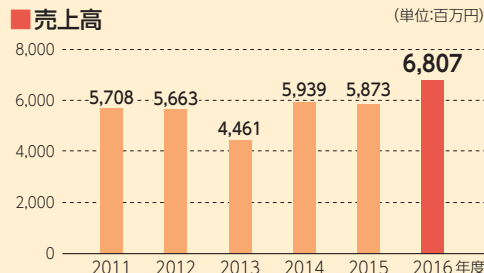
Q1 当期決算のポイントについて教えてください。

A 当期におきましては、2016年1月から12月までの工作機械受注実績(日本工作機械工業会発表)が前年比15.6%減の推移となる等、総じて厳しい経営環境が続きました。このような状況の下、業績面におきまして、利益面では誠に遺憾ながら対計画未達となったものの、売上高については当社製品の高い競争力により、当初計画レベルを達成することができました。

なお営業利益率につきましては、当社の経営の柱である「精緻な原価管理」により、昨年に引き続いて10%超を確保することができました。

財務ハイライト

※2015年度は決算期変更のため2015年4月1日から同年12月31日までの9ヶ月決算となっております。



(注)金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

Q2 業種別の動向についてはいかがでしたか？

A 「立形研削盤」の市場形成が進む中、当社の当期の累計受注額は6,208百万円を突破し、立形研削盤市場が更に広がり始めています。このようなトレンドの中でも、特筆すべきは自動車関連ユーザーの拡大です。

日本の産業界を支える自動車産業からは、非常に高い技術レベルが常に求められます。当社は、自動車関連業界に研削盤を納める企業としては後発企業でありましたが、約15年前より同業界に製品投入を開始しました。以来、新機種の開発・投入に繰り返し努めてきた結果、今日では多数の国内大手自動車メーカーと取引を確立し、また各メーカー先では、自動車の重要部分で、高い精度が求められるエンジン(ミッション)部品の加工に当社製品が使われるようになりました。これらは当社に対する高い信頼、そして当社製品の性能や生産性など、投資効果に対するリターンをご理解いただいていることの証しである、と私は考えています。

自動車関連業界からのニーズに応じていくためには、その一歩先を行く製品レベルの向上が不可欠です。これからも当社の信条である「守りに入らず、常にチャレンジしていくこと」、「常にお客様を見て、その時代のニーズを捉えた製品を提案すること」に努め、自動車関連業界のみならず幅広いお客様の成長に貢献していきたいと考えています。

Q3 継続して取り組んでいる海外市場開拓の進捗状況についてお聞かせください。

A 当社では中長期目標の1つとして、海外売上高比率50%の達成を目指しています。現在はアメリカ・ドイツ・中国に拠点を構え、海外現地における営業及びアフターサービス体制の強化を行っています。またこれまで海外市場では、大手航空機エンジンメーカーや建設機械メーカー向けに「大型機」を中心に納入していましたが、海外市場の更なる掘り起こしに向け、自動車関連メーカーをターゲットとした量産部品用の小型機も納入していく計画です。

海外でも、自動車関連産業が活況を呈し、顕在及び潜在的ニーズの双方が大きく見込まれます。その中で当社が、日本で多くの経験と実績を積み重ねた高精度で高い生産性のある機械を投入することにより、海外のお客様にも日本の最先端の自動車産業の技術を取り込めることができると考えています。

本格的始動は本年半ば頃からを予定しておりますが、これと並行し今後の当社成長を更に担保するものとして、社員の語学教育にも引き続き注力していく方針です。

Q4

次期（2017年12月期）の見通しや今後の経営ビジョンについてご説明願います。

A

次期の主な業績予想としては、売上高6,900百万円(前期比1.4%増)・受注高7,000百万円(前期比12.8%増)・営業利益870百万円(前期比7.9%増)を見込んでいます。足元の状況では、工場はフル稼働し、6ヶ月先までの生産計画が埋まっている状態です。また、前期に販売を開始した超生産型立形研削盤「PGV-3」も順調に受注を獲得しており、これからの太陽工機を代表する戦略的機種の一つとなりつつあります。

当社が工作機械市場(1兆2,500億円規模)の中でターゲットとする研削盤は、市場全体の約8~10%ほどの小さな規模ですが、その中で当社は「立形研削盤市場」を独自に開拓し、多工程の集約化など様々な加工方法を幅広い業界に向けて提案してきました。この先に向けても、世界の中で通用する機械を作り続けていくことにより、市場の開拓と拡大を一層進めていきます。

Q5

株主還元の状況など、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A

このたびの期末配当は、現状の業績を踏まえ、1株当たり40円(前期比20円増配)とさせていただきます。当社は、経営基盤の充実や今後の成長性、

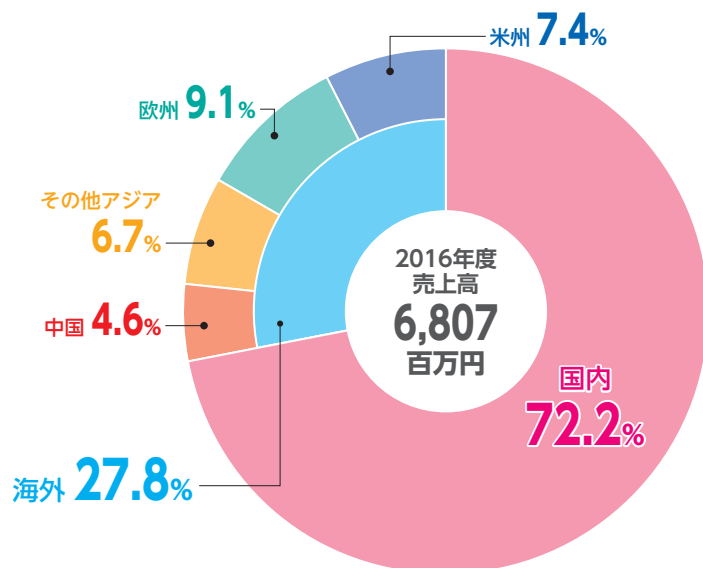
事業展開を総合的に判断した上で、株主の皆様への利益配分及び内部留保を決定しています。次期の期末配当につきましては、この方針に基づき決定していきますが、今後の業績見通しなどを総合的に勘案し、1株当たり40円を計画しています。

多くの方々に支えられながら、当社は昨年3月に設立30周年を迎えることができました。今後へ向けては新たな投資も視野に入れながら、次の成長ステージへの飛躍を目指してまいります。株主の皆様におかれましては、当社の成長にご期待いただき、今後とも末長くご支援を賜りますようお願い申し上げます。

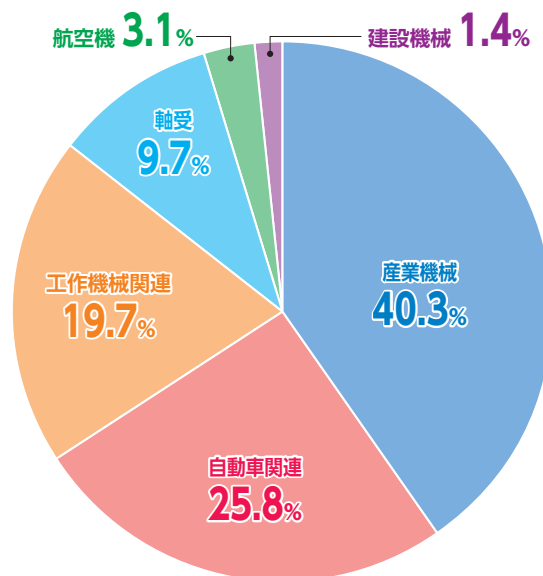


国内の自動車関連企業からの積極的な設備投資需要を

地域別売上構成比



業種別売上構成比



国内

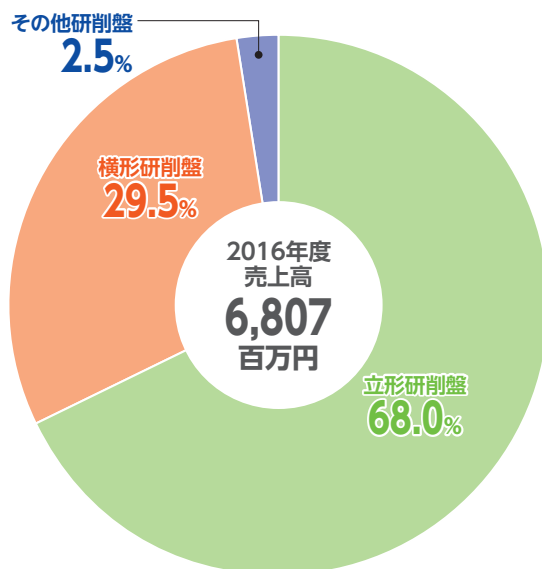
産業機械関連企業や自動車関連企業からの受注が堅調を維持いたしました。特に自動車関連企業の継続的な大口受注や産業機械関連企業、工作機械関連企業からの複数台受注が売上増加に寄与いたしました。今後もリピートユーザーの設備投資需要を掘り起こすとともに、新規ユーザーの開拓に尽力してまいります。

海外

米州と欧州に現地技術営業スタッフを配置したことにより、現地ユーザーからの受注が順調に増加いたしました。また国内の自動車関連企業からの米州向け、軸受関連企業のベトナム向け大口受注が売上に大きく貢献いたしました。今後は、欧州と米州の更なる需要拡大に向け、営業活動の強化を行ってまいります。

獲得。海外では新規顧客開拓に成功いたしました。

品目別売上構成比



小型機から大型機までの幅広い種類の立形研削盤の受注が売上に貢献いたしました。

立形研削盤では、産業機械関連企業や工作機械関連企業、軸受関連企業から汎用機であるVertical Mate®シリーズや高生産型のCVGシリーズを始め、ハイスベックマシンであるNVGHシリーズの受注を多数獲得いたしました。また自動車関連企業から小型機IGVシリーズや高生産型のPGVシリーズの受注をいただき、売上増加に寄与いたしました。

横形研削盤では、自動車関連企業からのCGNシリーズの大口受注を獲得し売上に貢献いたしました。

今後も製品ラインナップを拡充するとともに、国内外の販路拡大に努めてまいります。

立形研削盤とは



立形研削盤は、部品を重力に対して垂直方向に回転させて加工する方式の工作機械です。当社がもつ独自技術により1991年に業界で初めて開発・製品化し、現在は主力製品として国内でトップシェアを占めています。加工する部品を垂直に設置するため、段取りが容易であるばかりが重力の影響を受けず加工精度に優れた特性をもち、工場内の省スペース化にも貢献します。

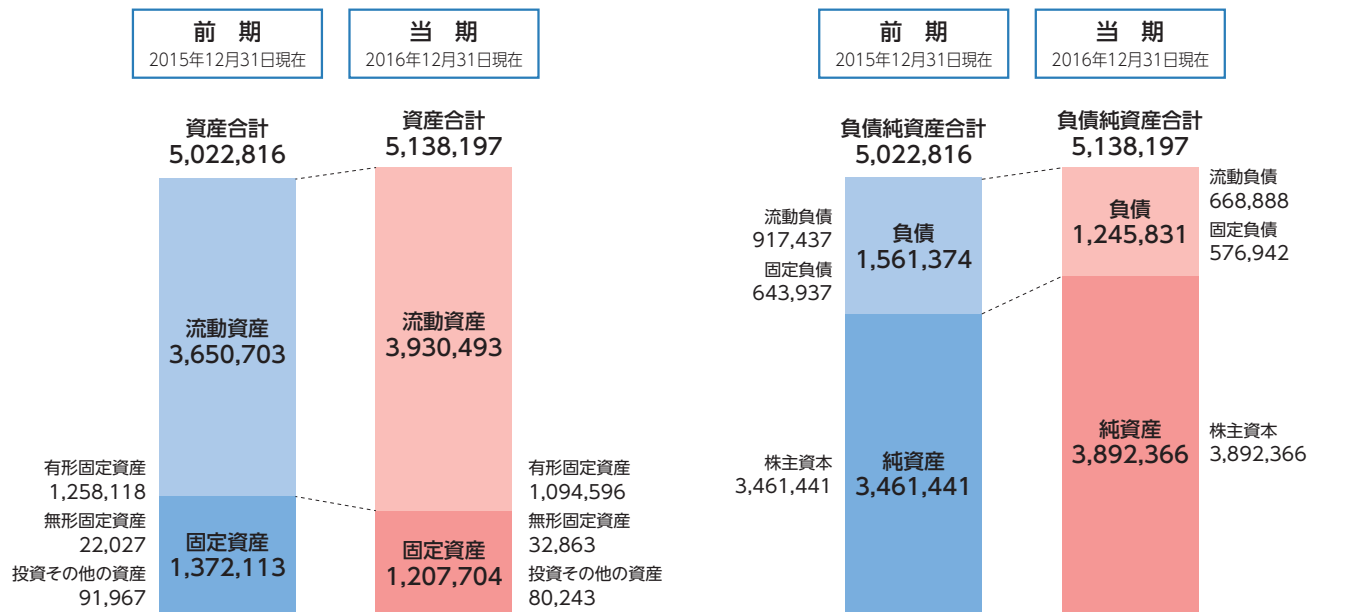
当社の研削盤が加工した製品は、こんなところで使われています。



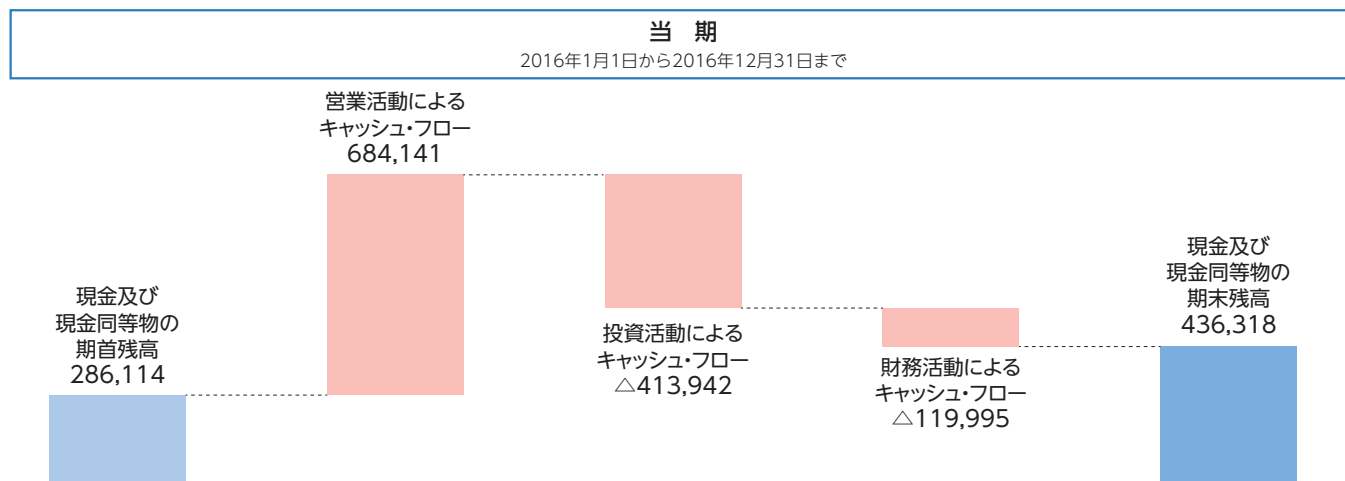
当社の研削盤は、自動車や航空機、建設機械におけるエンジン部品やシャフト、ベアリング、風力発電設備の変速機といった重要部品の加工に利用されています。0.001mm単位で要求される精度に応えて、低燃費の実現や振動の抑制などによる乗り心地、安全性、長寿命等品質の向上に重要な役割を果たしています。

財務諸表

貸借対照表の概要 (単位:千円)

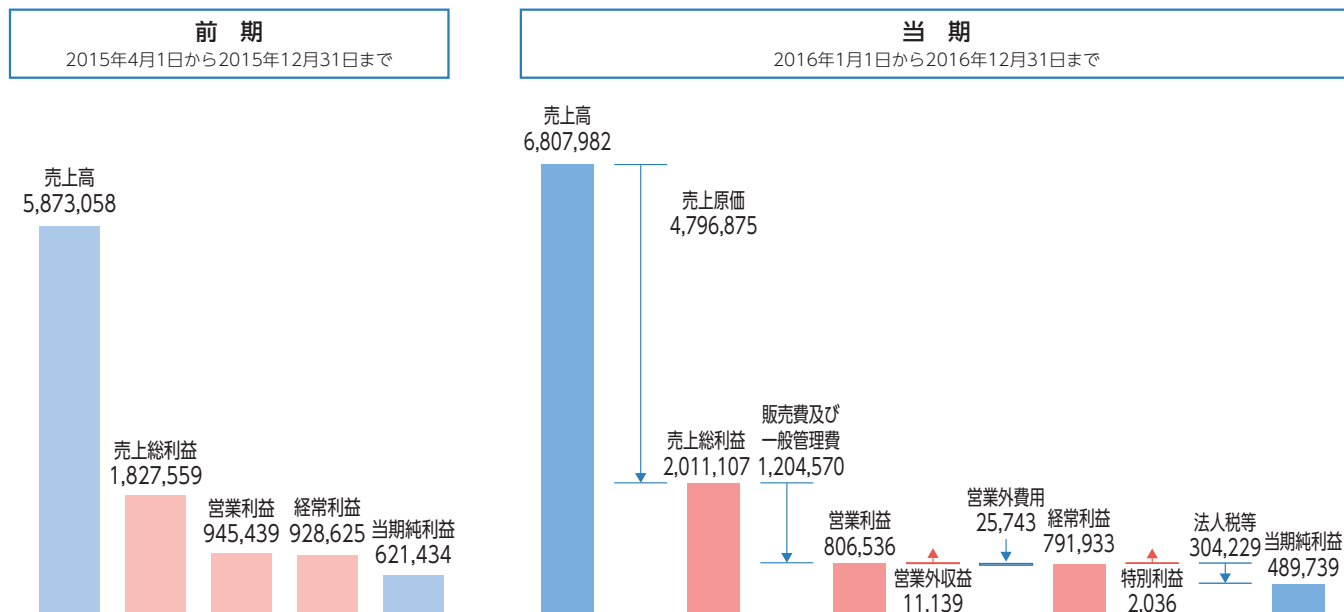


キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:千円)



※2015年度は決算期変更のため2015年4月1日から同年12月31日までの9ヶ月決算となっております。

■ 損益計算書の概要 (単位:千円)



■ 株主資本等変動計算書 (単位:千円)

当 期 2016年1月1日から 2016年12月31日まで	株 主 資 本								純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本 合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金	利益剰余金合計			
					繰越利益剰余金				
当 期 首 残 高	700,328	387,828	85,132	472,960	2,321,871	2,321,871	△33,718	3,461,441	3,461,441
当 期 変 動 額									
剰 余 金 の 配 当					△58,765	△58,765		△58,765	△58,765
自 己 株 式 の 取 得							△50	△50	△50
当 期 純 利 益					489,739	489,739		489,739	489,739
当 期 変 動 額 合 計	—	—	—	—	430,974	430,974	△50	430,924	430,924
当 期 末 残 高	700,328	387,828	85,132	472,960	2,752,845	2,752,845	△33,768	3,892,366	3,892,366

(注)金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

立形研削盤のラインナップ拡充 ～お客様の更なる生産性の向上を目指して～

2016年度は、小型量産部品の加工に高い評価をいただいているベストセラー機種IGVシリーズに比べ、機械幅を大幅に抑えた超小型立形研削盤「USG-1」を発表いたしました。当機種は、フロアスペースの効率化を極限まで追求することで、工場の生産性を飛躍的に高めております。

2017年度は、高生産性を実現したUSGシリーズの需要増加を見込み、加工する部品の種類に対応したラインナップの拡充を行ってまいります。

今後とも当社は、お客様のニーズにマッチした製品を開発し、付加価値の向上に尽力してまいります。



超小型立形研削盤 **USG-1**
自動車部品等小型量産部品の加工向け

世界の主要展示会に出展

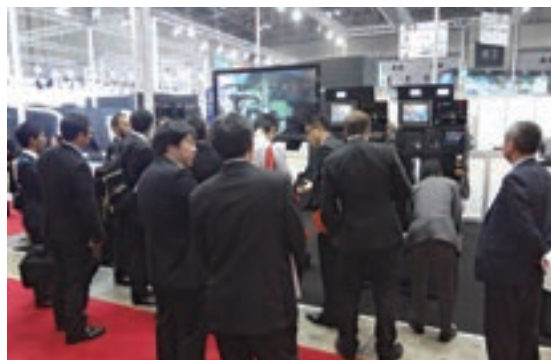
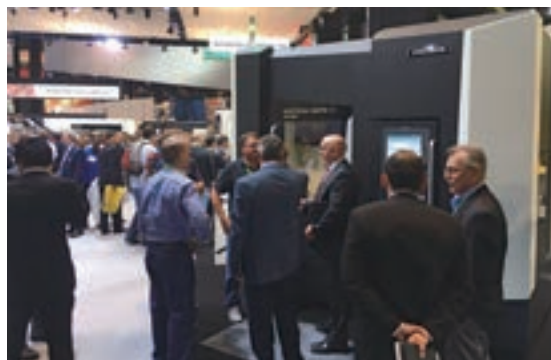
IMTS2016(シカゴ国際製造技術展)

2016年9月12日～17日の6日間、アメリカのシカゴにてIMTS2016が開催され、汎用立形複合研削盤「Vertical Mate®85」を出展いたしました。海外販売の拡大に向け、当社製品の技術力をアピールする絶好の場となりました。会期中には展示機の受注を獲得するとともに、多数の引合をいただくことができました。

JIMTOF2016(日本国際工作機械見本市)

2016年11月17日～22日の6日間、東京ビッグサイトにて国内最大の展示会であるJIMTOF2016が開催され、同年7月に発表した超小型立形研削盤「USG-1」を始め、高生産型の立形複合研削盤「PGV-3」、「CVG-6」、汎用立形複合研削盤「Vertical Mate®55」の全4機種5台を出展いたしました。当社製品の研削技術に対して高い評価をいただき、会期中に多数の受注及び引合をいただくことができました。

当社は今後とも展示会の出展数を増やし、国内のみならず海外での当社製品の更なる拡販を推し進めてまいります。



会社の概要 [2016年12月31日現在]

会 社 名	株式会社太陽工機 (TAIYO KOKI CO., LTD.)
資 本 金	700,328,200円
設 立	1986年3月14日
主な事業内容	工作機械(各種研削盤)の開発・製造及び販売
従 業 員	185名
ホームページ	http://www.taiyokoki.com
本 社 所 在 地	新潟県長岡市西陵町221番35
関 連 会 社	DMG森精機株式会社

Corporate Data

役 員	代表取締役社長	渡 辺	登
(2017年3月28日現在)	常 務 取 締 役 小 林 秋 男	常 務 取 締 役 棚 橋 基 裕	取 締 役 高 村 寛 義
	取 締 役 渡 辺 剛	取 締 役 加 藤 祐 司	取 締 役 森 雅 彦
	取 締 役 間 瀬 宏	常 勤 監 査 役 大 野 和 彦	監 査 役 大 野 義 彰
	監 査 役 内 ケ 崎 守 邦		

株式の状況 [2016年12月31日現在]

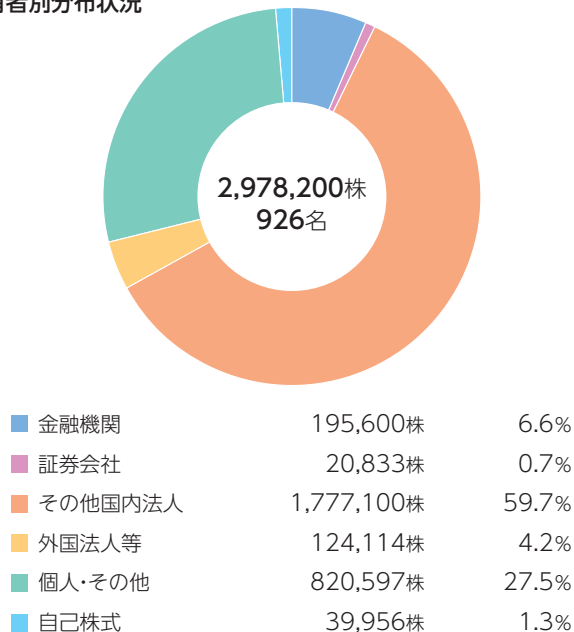
Stock Data

発行可能株式総数	9,000,000株
発行済株式の総数	2,978,200株
株 主 数	926名
大 株 主	

所有者別分布状況

大株主(自己株式は除く)	持株数(株)	持株比率(%)
DMG森精機(株)	1,494,000	50.8
(株)渡辺	152,000	5.1
渡辺登	148,000	5.0
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/ JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS	111,000	3.7
太陽工機従業員持株会	108,700	3.6
(株)井高	108,000	3.6
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	107,200	3.6
(株)第四銀行	40,000	1.3
(株)三井住友銀行	40,000	1.3
中田有希	15,400	0.5

(注)持株比率は、発行済株式の総数から自己株式(39,956株)を除いて計算しております。



株主メモ

事業年度 1月1日～12月31日

**期末配当金
受領株主確定日** 12月31日

**中間配当金
受領株主確定日** 6月30日

定時株主総会 毎年3月

**株主名簿管理人
および特別口座の
口座管理機関** 三井住友信託銀行株式会社

同連絡先 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
TEL 0120-782-031 (通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所JASDAQ (スタンダード)

公告の方法 電子公告により行う
公告掲載URL
<http://www.taiyokoki.com>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他の
やむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公
告いたします。)

ホームページのご紹介

<http://www.taiyokoki.com>

当社ではホームページにて
当社の企業情報を随時開示
しています。製品紹介、各種
リンク、サポート情報等を掲
載しているほか、IR情報のサ
イトでは決算短信等をご覧
いただけます。



ネットワーク

<国内拠点>

本社・工場

〒940-2045 新潟県長岡市西陵町221-35
TEL. 0258-42-8808 (代) FAX. 0258-42-8810

東部営業所

〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町2-340 ウノビル7階
TEL. 048-658-8701 FAX. 048-658-8702

中部営業所

〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅2-35-16
(DMG森精機株式会社内)
TEL. 052-563-1270 FAX. 052-563-1310

西部営業所

〒564-0052 大阪府吹田市広芝町4-1 江坂・美貴ビル8階
TEL. 06-6378-7166 FAX. 06-6378-7167

<海外拠点>

中国 (北京)

Room 1605, Tower B, Global Trade Center, No.36 North Third
Ring Road East, Dongcheng District, Beijing 100013, China
TEL. +86-10-5825-6006 FAX. +86-10-5825-6007
(DMG MORI SEIKI China 北京テクニカルセンタ内)

中国 (上海)

No.331 Guangzhong Road, Minhang District, Shanghai
201108, China
TEL. +86-21-6764-8876 FAX. +86-21-6764-9033
(DMG MORI SEIKI China 上海ソリューションセンタ内)

アメリカ (シカゴ)

2400 Huntington Boulevard Hoffman Estates, Illinois 60192
TEL. +1-847-593-5400 FAX. +1-847-593-5433
(DMG MORI SEIKI U.S.A., Inc. シカゴテクニカルセンタ内)

ドイツ (フランクフルト)

Steinmühlstraße 12d, 61352 Bad Homburg, Germany
TEL. +49-6172-49557-0 FAX. +49-6172-49557-30
(DMG MORI Management GmbH内)

ドイツ (ビーレフェルト)

Gildemeisterstraße 60, 33689 Bielefeld, Germany
TEL. +49-5205-74-2233 FAX. +49-5205-74-2239
(DMG MORI Management GmbH内)